

災害廃棄物処理 成果報告シンポジウム  
～広域処理が果たした役割と成果～

# 宮城県の災害廃棄物処理状況



宮城県環境生活部  
次長兼震災廃棄物対策課長 笹出陽康



# 1. 災害廃棄物処理の基本方針(平成23年3月28日策定)

## ◆処理主体

- ・ 原則、**市町村**が処理
- ・ 被害が甚大で、市町村が自ら処理することが**困難**な場合には、地方自治法の事務の委託を受けた**宮城県**が実施



## ◆処理期間

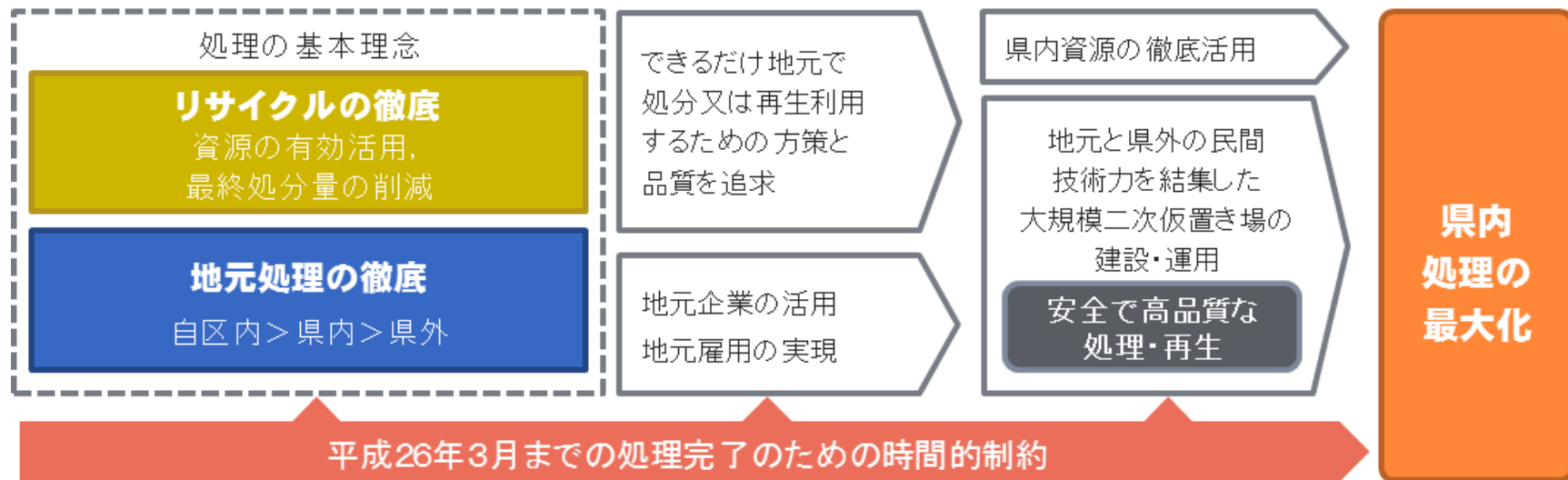
- ・ 概ね、**3年以内に実施**  
→その後、環境省マスタープランを踏まえ、「宮城県災害廃棄物処理実行計画」に**平成26年3月終了**を明記



## 2. 災害廃棄物処理の考え方

- ◆宮城県の災害廃棄物は、**県受託処理**と**市町村独自処理**の協働・並行処理
- ◆**県受託処理の考え方**

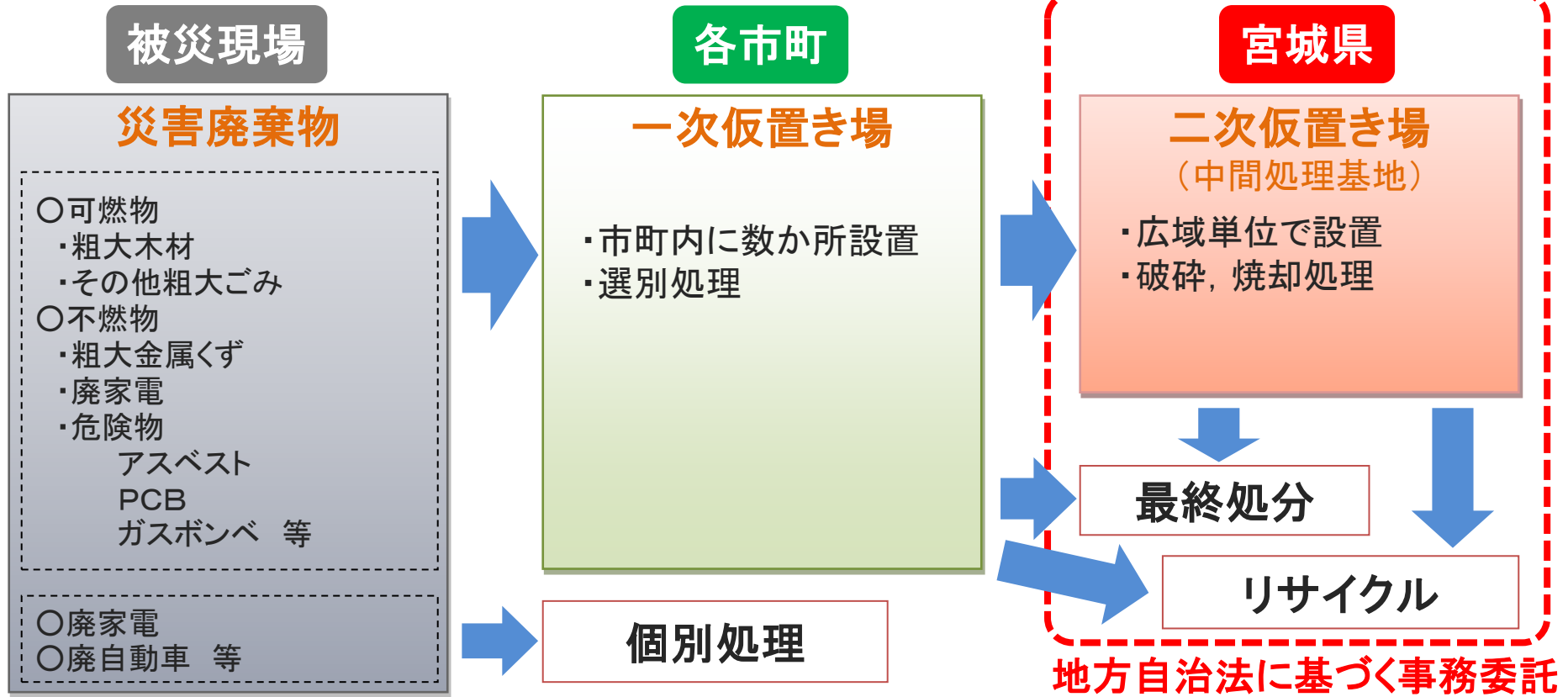
震災復興の前提としての「速やかながれき処理」



最大限の県内努力のもと県外の幅広い支援を得てがれき処理を推進



# 3. 災害廃棄物の処理の大まかな流れ



## 4. 二次仮置き場の設置状況(県受託処理分)

● 二次仮置き場の位置

◆ 膨大な量の災害廃棄物の処理を効率的に進めるため、広域市町村圏をもとに、**12市町**を**4ブロック**に分けて二次仮置き場を設置

気仙沼ブロック (気仙沼市・南三陸町)

石巻ブロック (石巻市・東松島市・女川町)

宮城東部ブロック (塩釜市・多賀城市・七ヶ浜町)

亘理名取ブロック (名取市・岩沼市・亘理町・山元町)



# 5. 処理事業者の選定結果(県受託処理分)

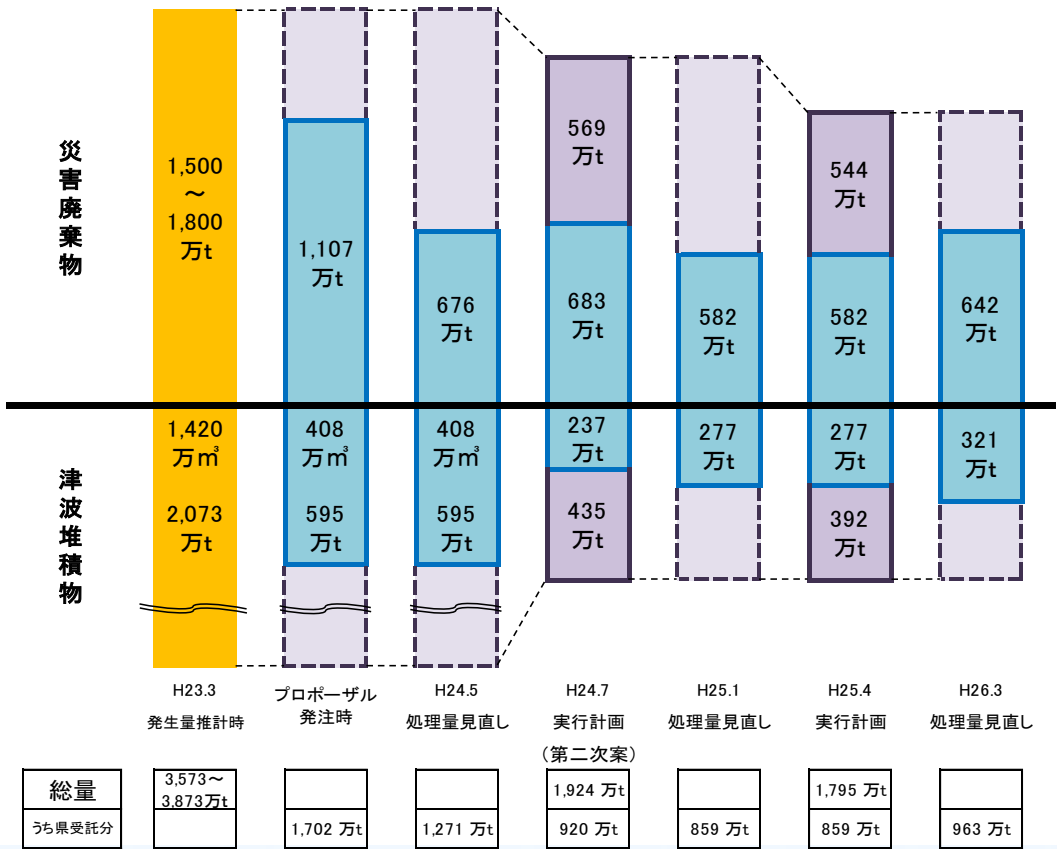
◆ 県受託処理分のみで**約3,700億円**

市町名	地域 ブロック	処理区	契約時期	契約額(単位:億円)		受託業者
				当初	変更後	
気仙沼市	気仙沼 ブロック	気仙沼	H24.5契約 H25.2変更 / H26.2変更	484.1	729.0	大成・安藤ハザマ・五洋・東急・西武・深松・丸か・小野良・阿部伊特定業務共同企業体
南三陸町		南三陸	H24.3契約 H25.2変更 / H26.2変更	220.0	272.0	清水・フジタ・鴻池・東亜・青木あすなろ・銭高・浅野特定業務共同企業体
石巻市	石巻ブロック		H23.9契約 H24.9変更 / H26.1変更	1,923.6	1,257.6	鹿島・清水・西松・佐藤・飛島・竹中土木・若築・橋本・遠藤特定建設工事共同企業体
東松島市						
女川町						
塩竈市	宮城東部ブロック		H23.12契約 H25.2変更 / H26.1変更	235.2	236.0	JFE・鹿島・鴻池・飛島・橋本・東北重機特定業務共同企業体
多賀城市						
七ヶ浜町						
名取市	亘理名取 ブロック	名取	H23.10契約 H25.2変更 / H26.2変更	162.0	196.6	西松・佐藤・奥田・グリーン企画・上の組特定業務共同企業体
岩沼市		岩沼	H23.10契約 H25.2変更 / H26.1変更	237.8	208.7	安藤ハザマ・奥田建設・上の組・春山建設・佐藤建設特定業務共同企業体
亘理町		亘理	H23.10契約 H24.9変更 / H26.1変更	543.3	457.5	大林・戸田・鴻池・東洋・橋本・深松・春山特定業務共同企業体
山元町		山元	H23.10契約 H25.2変更 / H26.1変更	330.8	340.4	フジタ・東亜・青木あすなろ・大豊・本間・河北・佐藤特定業務共同企業体
計				<b>4,136.2</b>	<b>3,697.9</b>	





# 6-1. 災害廃棄物等処理対象量(県受託処理分)



◆最新の実績を反映し、再試算した結果、県受託処理量は災害廃棄物が**約642万トン**、津波堆積物は**約321万トン**となる見込み

◆市町村独自処理分を含めた県全体の処理量は、現在精査中であり、新年度以降公表予定

凡例

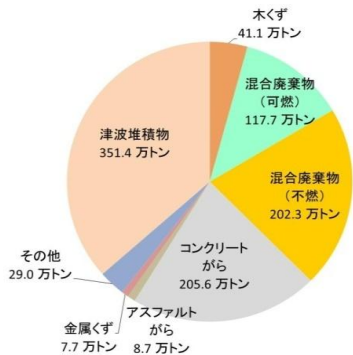
- 当初推計量 (Yellow)
- 県処理対象量 (Blue)
- 市町村処理量 (Purple)
- 見直しを行わなかったもの (Dashed box)



# 6-2. 災害廃棄物等処理対象量(県受託処理分)

## 処理対象廃棄物

災害廃棄物 約612万トン・津波堆積物 約351万トン



		種別	対象量
災害廃棄物	可燃物	木くず	41.1万トン
		混合廃棄物(可燃系)	117.7万トン
	不燃物	混合廃棄物(不燃系)	202.3万トン
		コンクリートがら	205.6万トン
		アスファルトがら	8.7万トン
		金属くず	7.7万トン
	その他		29.0万トン
計		612.1万トン	
津波堆積物		351.4万トン (240.7万㎡)	
合計		963.5万トン	

混合廃棄物(可燃)  
約118万トン



混合廃棄物(不燃)  
約202万トン



津波堆積物  
約351万トン



木くず  
約41万トン



コンクリートがら  
約206万トン

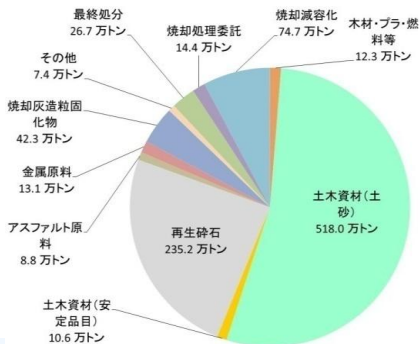


金属くず  
約8万トン



## 処理後物

災害廃棄物 約642万トン・津波堆積物 約321万トン



		種別	対象量
再生利用	再生利用	木材・プラ・燃料等	12.3万トン
		土木資材(土砂)	518.0万トン
		土木資材(安定品目)	10.6万トン
		再生砕石	235.2万トン
		アスファルト原料	8.8万トン
		金属原料	13.1万トン
		焼却灰造粒固化物	42.3万トン
	その他	7.4万トン	
	最終処分		26.7万トン
	焼却処理委託		14.4万トン
焼却減容化		74.7万トン	
合計		963.5万トン	

土木資材(土砂)  
約518万トン



再生砕石  
約235万トン



木チップ  
約11万トン



焼却灰造粒固化物  
約42万トン



最終処分(焼却灰)  
約14万トン



最終処分(不燃残渣)  
約5万トン

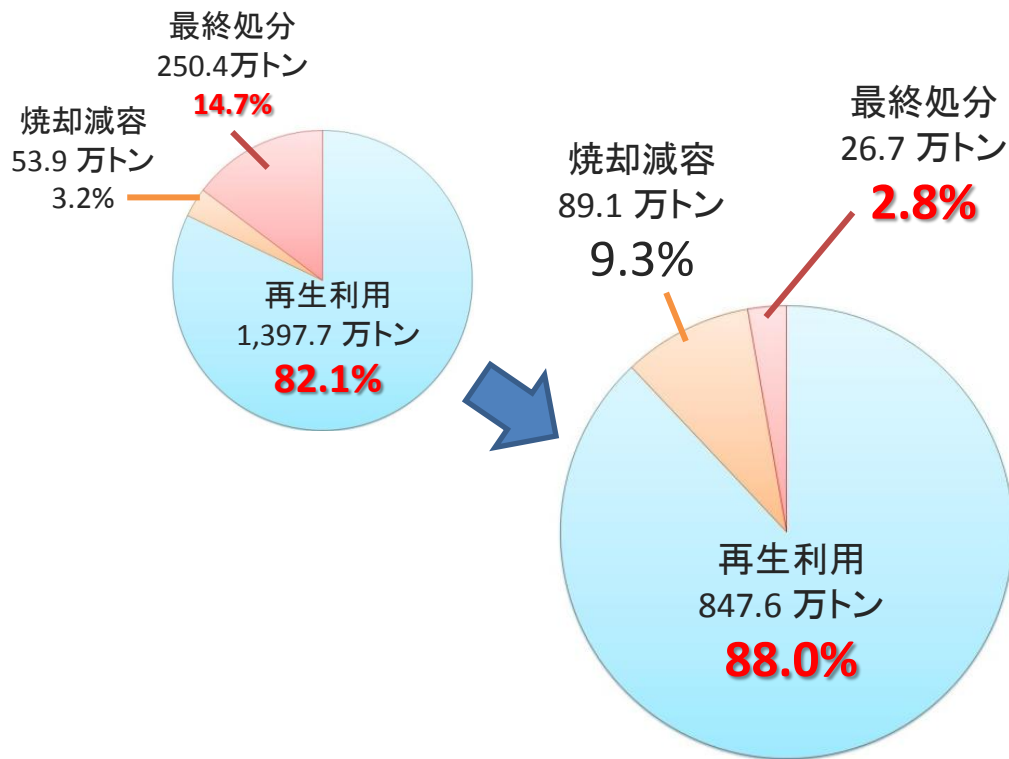




# 7. 災害廃棄物処理の進捗状況等(県受託処理分)

◆処理は順調に進捗し、H26.3完了は确实

◆リサイクル率は、実績見込み88.0%



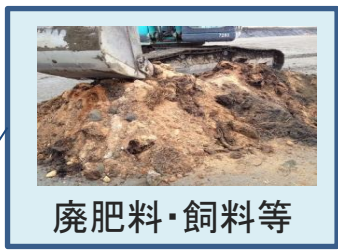
◆仮設焼却炉での焼却量は、約130万トン

ブロック・処理区名	炉数	能力(トン/日)	焼却量(万トン)	焼却完了日
気仙沼処理区	4	700	11.4	H25.11.15
南三陸処理区	3	285	9.3	H25.10.26
石巻ブロック	5	1,588	57.6	H26.1.18
宮城東部ブロック	2	320	9.2	H25.10.1
名取処理区	2	190	7.2	H25.10.1
岩沼処理区	3	195	6.6	H25.10.19
亶理処理区	5	525	16.8	H25.11.8
山元処理区	2	309	13.5	H25.12.26
県計	26	4,112	131.5	

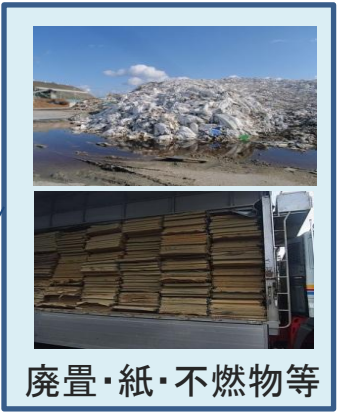


# 8-1. 災害廃棄物の広域処理

◆ 広域処理量は約33万トン(1都6県)



青森県  
約3.4万トン



山形県  
約13.8万トン

茨城県  
約6.0万トン

東京都  
約6.2万トン



福岡県  
約2.3万トン



福島県約1.1万トン,  
栃木県約0.1万トン



## 8-2. 広域処理の効果

◆宮城県では、緊急性・危険性の高い仮置き場から優先的に廃棄物を搬出  
→広域処理によりスピード感をもって処理が進んだ

事例：石巻市川口町一次仮置き場





# 9-1. 県内処理の拡大(最終処分場の確保)



- ◆沿岸自治体の最終処分場だけでは埋立可能容量がひっ迫。
- ◆このため、県受託処理分については内陸の自治体や産業廃棄物最終処分場でも周辺住民の理解を得ながら埋立処分を実施。(実績 **約18.6万トン**)

## 宮城県内における災害廃棄物の最終処分先(県受託処理分)

### 自治体の最終処分場

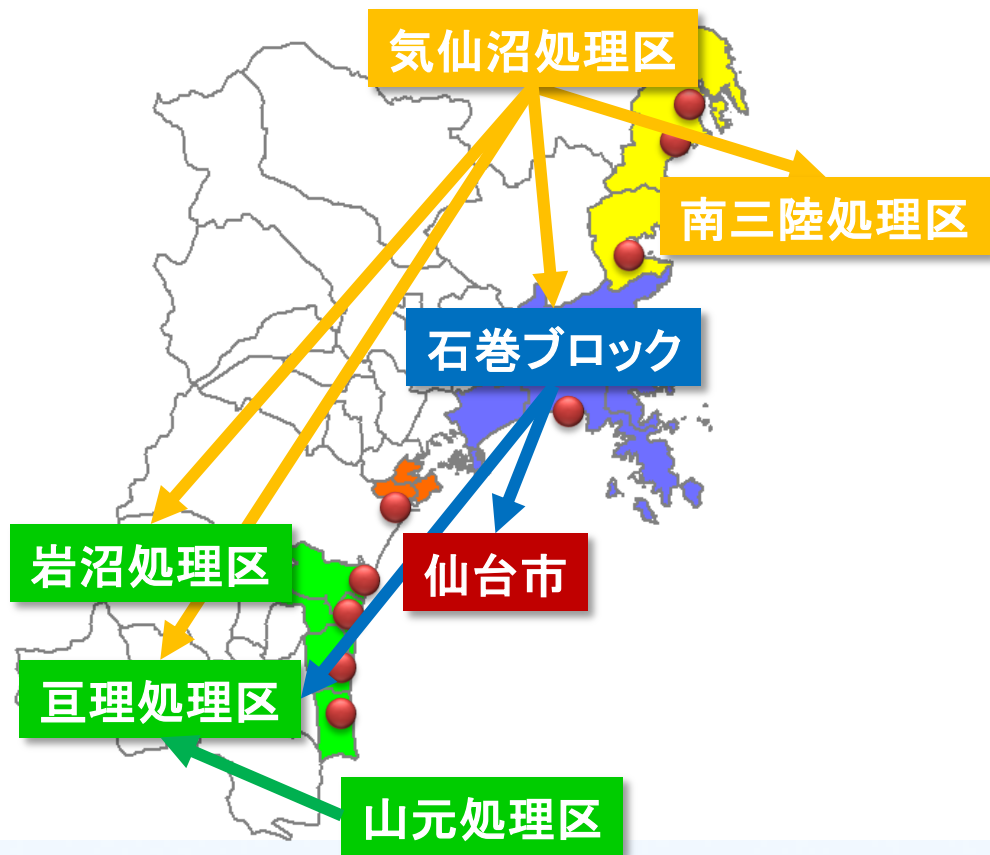
- ・気仙沼市, 石巻市, 塩竈市, 利府町(宮城東部衛生処理組合), 亶理町(亶理名取共立衛生処理組合)
- ・栗原市, 登米市, 大崎市(大崎地域広域行政事務組合), 白石市(仙南地域広域行政事務組合)

### 産業廃棄物最終処分場

- ・宮城県環境事業公社小鶴沢処理場(大和町, 大郷町)



## 9-2. 県内処理の拡大(仙台市・プラント間連携)



- ◆処理が順調に進んでいた仙台市の協力により石巻ブロックの可燃物を焼却・最終処分。  
(実績 **約5万トン**)
- ◆石巻ブロック, 気仙沼処理区, 山元処理区の処理能力不足を補うため, 他ブロックへ災害廃棄物を搬出し, 処理。(実績 **約23.6万トン**)



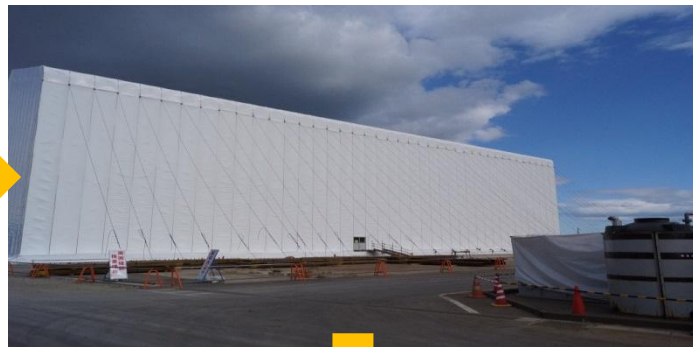


# 10. 施設解体・原状復旧の状況(名取処理区)

全覆いテント組立



テント設置完了



テント撤去完了



テント内部での焼却施設解体



# まとめ

- ◆被災市町から事務の委託を受けた宮城県では、**リサイクルの徹底、地元処理の徹底**を基本理念に災害廃棄物処理を行いました。
- ◆しかしながら、**発生した災害廃棄物はあまりに膨大な量**であり、3年以内に処理するため、広域処理をお願いし、1都6県で約33万トンの引き受けをいただきました。
- ◆おかげさまで、概ね順調に推移し、**平成25年度中の処理終了が確実**となりました。多くの御協力・御支援をいただき、改めて感謝申し上げますとともに、県としても、復興という次のステージに物的、人的資源を振り向けることができるという意味で非常に大きな節目であると考えています。
- ◆また、この経験を次の備えに活かすため、来年度に推計手法、契約や発注のあり方、現場の課題や経験など様々な観点から、**今回の取組みを評価、検証する**予定です。



皆様方からのあたたかい御支援に  
心より感謝申し上げます。



復興へ  
頑張ろう!  
みやぎ

